

ニアメ首都圏における有機性ゴミによる緑化活動（2021年～2024年）



都市衛生の改善と砂漠化の問題を同時に解決！

- **実施団体**：京都大学アフリカ地域研究資料センター
- **相手国・地域**：ニジェール共和国・首都ニアメ市
- **現地カウンターパート**：環境・砂漠化対策省
- **協力内容**：
 - ・ニアメ市内の有機性ゴミを活用し、近郊農村部の荒廃地を緑化し、農耕地や牧草地に転換させる。
 - ・家庭ゴミと農村の生産物の物質循環を構築することにより、都市の衛生状態を改善する。
 - ・市民への啓発により、ゴミの資源化と環境修復を進める。



種をまかなくても
家庭ゴミから植物
が育つ



- **団体のこれまでの取り組み**：

本事業プロジェクトマネージャーである大山修一(同センター教授)は、過去20年以上、家庭ゴミによる緑化実験を繰り返し、都市衛生の改善と砂漠化問題の解決、農耕民と牧畜民の紛争予防と社会の融和にむけた実践的な研究を積み重ねてきた。
- **事業実施の背景**：
 - ・ニジェールは砂漠に覆われ、耕作可能地は国土の約1割。雨や強風の影響で栄養豊富な土壌が流され、土壌劣化等により土地が荒廃し砂漠化が進む。
 - ・砂漠化は農作物や畜産物の生産量低下の原因になり、農業・牧畜業の就労人口が8割を超えるニジェールでは、飢餓や貧困に直結する深刻な問題でとなっている。

写真提供：大山修一

ニジェール国の課題と成果

課題① 首都圏の家庭ゴミは適切に処理されていない。

課題② 郊外の農村では砂漠化が進んでいる。

成果

緑化サイト3か所を建設。
(合計10.8ha) ニアメ市が
ゴミ運搬・投入を行った。
(約1,400トン)。
ゴミ投入後、雨季を経て
緑化が進み、牧草地及び耕作地が造成された。
有機性ゴミを使った荒廃地の緑化の取組みついで
の知見が共有された。



事業の波及効果



荒廃地の緑化による砂漠化の防止、都市のゴミ問題の解決、地域住民の貧困削減、地域の平和と安定といった様々な問題の解決に貢献

- ・家庭ゴミをまいた土地に季節風で飛ばされてくる砂が堆積し、シロアリの活動が活発化して土壌が改善。
- ・ゴミに含まれる作物や家畜飼料の種子が発芽し、植物が生育し、畑や森林が造設。
- ・放牧地や耕作地に転用でき、住民に職が生まれ、現金収入へ。
- ・土地不足等から雨季毎に勃発する農耕民vs牧畜民の紛争も予防。

